

インドネシアのコロナ検査

インドネシアでは現在感染者数が 1,482,559 人、死亡者数が 40,081 人、回復者数が 1,317,199 人 (3/25 現在) です。2 月以降減少傾向にあるものの未だ多くの感染者がいますが、今回はインドネシアでのコロナ検査の現状についてお話しします。感染者数が多い一方で、コロナの検査に関しては、日本より選択肢が広く、より安価で、手軽に受けられる印象を受けます。

インドネシアの国営空港運営会社アンカサ・プラ 1 は 3 月 18 日より、運営する空港の一部にて新型コロナウイルスの検査機「GeNoseC19」の試験運用を開始したとのことです。

「GeNoseC19」とインドネシア国立ガジャ・マダ大学の専門家チームが開発した呼気によるコロナウイルス検知器です。臨床試験を経たのち、保健相からの配布許可を得たため、一般でも使用が開始されました。

「GeNoseC19」では特別な袋に入れられた呼気を検査し、ほんの数分で患者を検出することができます。ガジャ・マダ大学の研究チームによって開発されたこの技術は、コロナウイルスの患者と通常の人の呼吸に含まれる有機化合物を区別できるそうです。研究の結果から、コロナウイルス感染者の呼吸には、独特の有機粒子が含まれているため、その他の呼吸器疾患の患者と区別することができるそうです。テストの結果は最大 97%の精度を示しているとのことです。

公共交通を利用する際に通常のコロナ検査を受けると、交通費を超える費用が掛かる場合もあります。一方でこの「GeNoseC19」は PCR 検査や抗原検査に比べはるかに安く、またより手軽に受けることができるといった利点があります。この「GeNoseC19」の開発は、コロナウイルスの感染拡大を防止するという目的に加え、以前と同様の経済活動を取り戻すということも期待されています。

国内中部・東部の空港 15 か所で実施する予定で、ジョグジャカルタ国際空港とスラバヤのジュアンダ空港で先行して始めたのち、4 月から残りの 13 か所でも開始する予定です。空港での検査料金に関しては未だ検討中ですが、正式運用の前には決定する見込みです。

また、インドネシアのバンハン研究・技術相はこの「GeNoseC19」を全国の工場にも設置すべきとの見解を示しました。陰性が確実な人のみが就業することで、安全な労働環境の確保ができることを期待できるとのことです。

同様の検査はインドネシア国営鉄道会社・クレタ アピ インドネシア (KAI) でも実施されています。インドネシアの鉄道駅では空港に先行して開始されており 3 万ルピア (約 230 円) となっています。現在は 23 か所の鉄道駅で実施されていますが、今後実施される駅は 44 駅に拡大されます。

長距離列車への搭乗を希望する人に対し、条件の一つとして「GeNoseC19」検査を受けることを義務付けられるケースもあるようです。長距離列車の利用者は、陰性の「GeNoseC19」証明書、抗原迅速検査、または PCR の陰性証明 (出発の 2 4 時間以内) を提示する必要があります。駅に設置されている「GeNoseC19」のサービスは 7:00 から 16:00 まで 3 万ルピアで利用可能です。この検査によって陽性が判明した場合、チケットはキャンセルされ、チケット代は全額返金されるとのことです。このサービスを利用するには、長距離列車のチケットもしくはブッキングコードを持っている必要があります。また、「GeNoseC19」検査結果の精度を高めるために、検査前の 30 分間、「喫煙、飲食 (水を除く) は禁止されています。

その他、インドネシアの国営航空会社のガルーダ・インドネシア航空では3月2日～31日にガルーダ・インドネシア航空の公式サイト、アプリ、予約センターなどで航空チケットを購入した旅客を対象に、無料のPCR検査を実施します。チケット代金の支払手続が完了したのちに登録したメールアドレスに抗原検査のチケットが届き、指定の医療機関で検査を受けることができます。同様の検査は、格安航空会社ライオンエアやグループ会社のバティックエアでも一部路線で実施されていましたが、対象区間を拡大するとのことです。

また、インドネシアの製薬会社のイノラボ・サインス・インターナショナルは、ジャカルタでの感染状況調査のため、ドライブスルー形式でのPCR検査を開始しました。原則、24時間以内に結果を受け取ることができ、日本入国の際のフォーマットにも対応していることから、在留邦人の一時帰国の際にも利用できます。検査料はPCRが85万ルピア(約6,500円)、抗原検査が25万ルピア(約1,900円)とのことです。検査所に到着したら、車で検査料の支払場所に行き、支払を済ませたのち、検体採取所が設営されたテントまで車でいきます。また支払方法は電子マネーや、クレジットカードのみで、現金は受け付けません。検体を採取するスタッフが車まで来るため、車外に出ず、検査を受けることが可能です。検査結果は翌日の午後4時までにメールで受け取ることが可能です。抗原検査の場合は検査後、車で30分ほど待機したのち、その場で結果を受け取ることが可能です。

インドネシア国内ではすでにワクチン接種が始まっており、インドネシアの調査会社が行った調査では、調査に答えた人のうち「ワクチンを積極的に受けたい」と答えた人は46%、「ワクチンの安全性を信じない」と答えた人は25%とのことです。ワクチンに不信感を抱いている人も少なからずおり、そのことは今後の免疫獲得の障害となることが懸念されますが、インドネシアにおいても、コロナウィルス終息に向け、徐々に前進している印象を受けます。いち早く新型コロナウイルスが収束し、また経済活動の完全な再開が望まれます。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク（PT.JC内）概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 46

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏（たけい かずひろ）

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会に業務を委託）。ご利用に当たっては、「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」利用の手引きをご覧ください。岡山県産業企画課マーケティング推進室（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。